

バトルクリーク補習授業校の教育と現地教育事情

苫小牧市立北星小学校 教頭 岩井 真二
(平成15～17年度バトルクリーク補習授業校派遣)

1 はじめに

私は運よく2度の海外勤務を経験させていただきました。1度目は南アフリカ共和国ヨハネスブルグ日本人学校、そして2度目がアメリカ合衆国ミシガン州にあるバトルクリーク補習授業校でした。

日本人学校と補習授業校は、どちらも在外教育施設ですが、学校のシステムは全く異なります。そして、日本の子供たちが過ごす学校生活も大きく違ってきます。

再派遣といいながら、補習授業校勤務は、日本人学校での経験をそのまま活かさない面も多く、戸惑いや試行錯誤の連続でしたが、補習授業校の魅力をたくさん知ることができた3年間になりました。

2 派遣国の概要

アメリカ合衆国は、ご存知の通りたいへん大きな国です。各地方には異なる特色がありますので、ここでは、派遣になったミシガン州を含む中西部、更には派遣校のあるバトルクリーク市についてお知らせします。

(1) アメリカ合衆国中西部

アメリカの中西部とは、東はアパラチア山脈の麓から、西はロッキー山脈の麓に至る広大な地域の総称です。

これに含まれるのは12州で、イリノイ・ミシガン・インディアナ・オハイオ・ウィスコンシンの各州からなる五大湖地方、及びミネソタ・アイオワ・ミズーリ・サウスダコタ・ノースダコタ・ネブラスカ・カンザスからなる平原地帯の2つの経済圏に大別することができます。

ミシガン州を含む五大湖地方には、アメリカ合衆国の人口の約20%が集中し、アメリカ産業の心臓部と称され、鉄鋼・自動車製造などの工業地帯を形成しています。

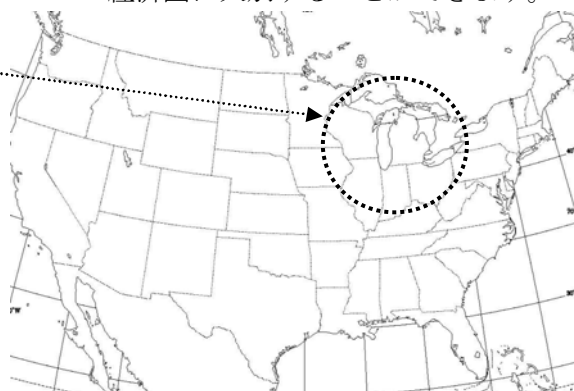
これに対して、平原地帯は、別称コーンベルトと呼ばれ、農業・酪農業を中心とした、全米でも最も重要な農業地帯として発展してきました。

気候はおおむね北海道ないし東北地方北部と似ていますが、北米大陸の中央に位置しているため、大陸性で寒暑の差が大きく、春と秋が短いのが特徴です。また、昼間と夜間の温度差もあります。

降雪が多く長い冬の生活と平坦な土地で農業・酪農業を中心とした生産活動により、中西部の人々は、一般的にゆったりとしています。そして、素朴で質実剛健な気質であると言えます。

さらに、中西部は東部とも西部とも異なるよき土地柄や人情をもっているという郷土愛・対抗意識のような自負の念がうかがえます。

反面、郷土愛が高じ、何でもナンバーワンにしたがる傾向もあります。シカゴ・オヘア空港の離



着陸機数やシアーズ・タワービルの高さへのこだわりが、その例として挙げられます。

(2) ミシガン州／バトルクリークについて

ミシガン州は、ミトンの手袋に似た形の Lower Peninsula とウィスコンシン州北部とつながっている Upper Peninsula で成り立っています。州都はランシング Lansing ですが、自動車産業で有名な大都市、デトロイトが経済の中心地と言えます。

派遣校のあるバトルクリーク市は、デトロイトとイリノイ州・シカゴを直線で結んだほぼ中間に位置します。両都市は高速道路（I-94）で結ばれており、バトルクリークからデトロイトへは2時間、シカゴへは3時間ほどで行くことができます。

バトルクリーク市の人口は約6万人で、森と湖に恵まれた自然豊かな田舎町です。

住宅地域も木々に囲まれており、野鳥のほかにリスやアライグマなどの小動物も多く見られます。シカが住宅近くに現れることも珍しくありません。

夏には、庭にホタルも飛び交います。

バトルクリークの名前の由来は、1825年にカラマズー川で起こった二人のインディアンと政府の土地調査員であった一人の白人による小競り合いが元になり、名づけられました。

※小競り合い・戦い：BATTLE（バトル）

小川：CREEK（クリーク）

全米においては、コーンフレーク等を製造する大手シリアル会社、ケロッグの本社があることで有名です。そのために、「シリアル・シティ」とも呼ばれています。



【緑に囲まれた住宅地】

20年ほど前、市は財政と雇用確保の施策として、日系企業の誘致に努め、現在18社の日系企業が進出しています。

日米の経済摩擦が取り上げられた頃、当時の駐米大使に「バトルクリークの奇跡」とまで称された当市の成功は、経済・教育など全ての面で、日米が構造的精神的に共存・融合している良い例となっています。

そのため、日本人に対する地元住民の理解も高く、恵まれた環境や支援体制の中で補習授業校が運営されています。

3 アメリカ及びミシガン州バトルクリーク市の教育事情

(1) アメリカの教育制度

アメリカの教育制度の大きな特徴は、教育行政が連邦政府でなく、各州に委ねられていることです。州教育庁・教育委員会の下には教育局があり、その下に学区があります。学区の裁量で決定できる範囲が広く、学区によって使用する教科書やカリキュラム、始業日、終業日、休日なども違ってきます。

高校までが義務教育で、公立では授業料は不要です。私立学校では月に数百ドルの授業料等がかかります。教科書は、学校が貸与し、学期終了後に返却しなければなりません。

学年は9月開始で翌年の6月初旬または中旬に終了するのが一般的です。したがって、夏休みは約3ヶ月あります。その期間、大学では夏期講習を設けたり、小中学校では、学習が遅れている子どものために補習コースを開設したりします。

また、各種のスポーツ、文化活動、野外学習など社会教育プログラム（有料）が用意されており、

子ども達が自由に選び、参加することができます。

(2) バトルクリークの教育 ～現地校の教育制度概要～

バトルクリークには、4つの教育学区 School District があり、居住する区域により学区が異なります。バトルクリークに住む日本人子弟のほとんどが、レイクビュー学区の学校に通っています。そのため、同学区教育委員会では、昨年度まで日本人などの外国人にELL (English Language Learning) の授業を指導するとともに、様々なサポートを担当する日本人教員を雇用していました。補習授業校もレイクビュー学区教育委員会の認可を受け、所属しています。

レイクビュー学区の学校年度は、8月下旬から6月上旬までです。学校週五日制で土・日は休業日です。

義務教育は、幼稚園 (Kindergarten) から高校までの13年間です。

就学は12月1日現在の年齢が基準となり、新年度の開始も8月下旬のため、日本の学年とずれてしまう場合があります。(進級が半年早まるパターンと遅れるパターン)

また、保護者の要望で1学年下げたりすることも難しくありません。

幼稚園は、小学校の校舎内に設置されています。中学校は、昨年度までテリトリアル・スクールに1年、ジュニア・ハイ・スクールに2年通うというユニークな形態をとっていました。

しかし、2005年12月に高校の新校舎が完成後、高校の旧校舎が中学校に転用され、学校が下記の通り再編制されました。

【昨年度までの学制】

- ◇幼稚園 (Kindergarten) : 半日保育 (午前保育と午後保育の2部制) 1年間
- ◇小学校 (Elementary School) : 1年～5年 (1st～5th Grade)
- ◇中学校 (Middle School) : 6年～8年 (6～8th Grade)
 - ・テリトリアル・スクール (Territorial School) : 6年生だけが通う学校
 - ・ジュニア・ハイ・スクール (Junior High School) : 7～8年生が通う学校
- ◇高校 (High School) : 9～12年生

【今年度からの学制】

- ◇幼稚園 (Kindergarten) ※変更なし
- ◇小学校 (Elementary School) : 1年～4年 (1st～4th Grade)
- ◇中学校 (Middle School) : 5年～8年 (5～8th Grade)
- ◇高校 (High School) : 9～12年生 ※変更なし

自宅から学校まで距離のある子どもには、スクール・バスによる送迎があります。

ただし、自宅から学校までが近くてスクール・バスを利用できない場合は、保護者による送迎が一般的です。(徒歩や自転車通学も可能)

授業は、小学校では8時20分過ぎから、中学校・高校 (Middle School～High School) では7時30分過ぎから始まります。下校は、小



学校では午後3時15分頃、中学校・高校では午後2時30分頃となります。

【現地校の授業風景 (Riverside Elementary School)】

4 補習授業校

ミシガン州には、バトルクリーク、デトロイト、グランドラピッズに補習授業校があります。デトロイトは約1,000名の在籍者がいる大規模校(派遣教員3名)です。一方、グランドラピッズは派遣教員のいない10名ほどの小規模校です。

バトルクリーク補習授業校(派遣教員は1名のみ)は、幼児部(年長)から高等部まで約160名の子供たちが在籍しています。

バトルクリーク在住者の他に、ジャクソン市・カラマズー市など近郊の町、遠くはインディアナ州のフォートウェイン市など、いろいろな町から通っています。片道1時間以上もかけて通学する子供も少なくありません。

永住予定者は少なく、ほとんどが企業の日本人駐在員子女で、5年前後で帰国します。現地校と補習授業校の学校生活を両立させることは決して楽なものではありませんが、子供たちは帰国後に備えてがんばっています。

5 バトルクリーク補習授業校の教育

(1) 学校の名称・所在地

(日本名) バトルクリーク補習授業校
(英語名) Battle Creek Japanese School

(所在地) 15 Arbor Street
Battle Creek, MI. 49015
TEL: (269)-565-2416
FAX: (269)-565-2428
E-mail bcjschl@mail.tds.net
ホームページ <http://www.bcjschool.org>



【借用校舎】

(2) 設置者及び運営主体

バトルクリーク補習授業校は、文部科学省から認定され、国より援助を受けている在外教育施設です。

また、Lakeview School District (レイクビュー学区教育委員会)からも、Japanese Saturday School として認可を受けています。

学校の運営はバトルクリーク補習授業校運営委員会が行います。



(3) 設置目的

- ① 幼児・児童・生徒が本国帰国後に、日本の保育・教育環境にスムーズに適応できる幼児・児童・生徒となるように指導することを目的とする。
- ② 幼児・児童・生徒の日本文化及び異文化理解を深め、将来広い視野に立って活躍できる子どもを育成することを合わせて目的とする。

(4) 学校の教育目標

①学校の教育目標

心豊かに学び、未来を切り拓く子ども

②目指す子ども像

- ・自分から進んで学習する子
- ・礼儀正しく、思いやりのある子
- ・ねばり強く、最後までやりぬく子



(5) 教育方針

設置目的ならびに教育目標を達成させるため、以下の教育方針を設定します。

- ①国語科、算数・数学科、社会科を中心とした教科学習を行い、日本語能力の保持・増進や基礎学力の定着を図る。
- ②日本の学校に準じた生活指導を行い、日本の学校生活に適應できる態度を養う。
- ③教科指導や学校行事等を通して、日本の文化や習慣を知らせ、自国や他国の文化を理解する基礎を培う。

(6) 学校の沿革（概要）

- | | | |
|-----------|-----|---|
| 1980(S55) | 9. | 日本人子女4名を対象にした日本語教室として開設される。 |
| 1981(S56) | 4. | 児童生徒数12名で日本語補習校を開設する。 |
| 1984(S59) | 8. | バトルクリーク日本人補習授業校として文部省の認可を受ける。 |
| 1992(H 4) | 3. | 児童生徒数100名を超える。 |
| 1993(H 5) | 4. | 文部省より初代派遣教員着任する。 |
| 1994(H 6) | 4. | 高等部が開設される。 |
| | 6. | 第1回運動会を開催する。 |
| 1995(H 7) | 11. | 第1回オープンハウスを開催する。 |
| | 12. | スクールフェスティバルを開催する。(クリスマス会より名称変更) |
| 1997(H 9) | 2. | Lakeview School District との間でクレジット制度(現地レイクビュー高校で補習授業校の成績を第2外国語の単位として認める)が認可される。 |
| 1999(H11) | 4. | 幼児部が設置される。 |
| 2004(H16) | 4. | 新教育課程の編成により小5から中3までに社会科を、高等学校に選択学習を導入する。 |
| 2004(H16) | 11. | 第5回オープンハウスを開催する。 |

【オープンハウス：現地校教員や一般の方々を対象とした学校公開日】

～補習授業校で学ぶ日本の子供や日本の教育・文化などを知ってもらおう催し～



(7) 設置課程等

①設置課程 幼児部、小学部、中学部、高等部の各学部を設置

②学 年 学年は日本と同様、4月1日から翌年3月31日まで

③修了・卒業

各学部の課程を修了したと校長が認定した者には、卒業式においてその旨を記した証明書（修了証書）を交付します。

ただし、日本の学校教育法等の法令に基づいた学校ではありませんので、在学、進級、卒業しても、日本において法的な効力はありません。

(8) 各学部について

①幼児部

幼児部は、日本の幼稚園教育のカリキュラムに準じて、「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」の各領域に基づく保育活動を行います。また、小学部とのつながりを考慮し、国語教育の基礎を指導します。

②小学部・中学部

設置目的ならびに教育目標を達成させるため、基幹教科である国語科・算数（数学）科を中心とした学習指導を行い、基礎学力を養います。

③高等部

小、中学部の教育方針に準じた指導に加え、個に応じた学習指導を加味し、生徒の進路（進学）をサポートします。



【幼児部 こいのぼり集会】



【高等部の授業風景】

【楽しい昼食（お弁当）】

(9) 年間保育・授業日数

49日（幼児部保育日数：43日）

【昨年度の場合】

第1学期 4月2日～7月23日
6月10日～7月22日の期間、
金曜日も授業日とする。

（幼児部は金曜保育を行わない。）

第2学期 8月20日～12月17日

第3学期 1月7日～3月18日



【6月 ぶっつけ本番で行う運動会】

(10) 指導教科とその時数

| | | | | |
|---------|--------------------------------|-------------------|-----------------------------------|----------------------|
| 幼 児 部 | 健康、人間関係、環境、言葉、表現などの各領域にわたり終日保育 | | | |
| 小学部1～2年 | 国 語 90(2) | 算 数 90(2) | 学級活動 24(2/mon.) | 教科補充学習 24(2/mon.) |
| 小学部3～4年 | 国 語 135(3) | 算 数 90(2) | 学級活動 24(2/mon.) | 教科補充学習 24(2/mon.) |
| 小学部5～6年 | 国 語 135(3) | 算 数 90(2) | 社 会 40(1) | 学級活動 12(1/mon.) |
| 中学部1～3年 | 国 語 135(3) | 数 学 90(2) | 社 会 40(1) | 学級活動 12(1/mon.) |
| 高等部1年 | 国 語 I 90(2) | 数 学 I 90(2) | 選 択 学 習 (小論文・進路別指導など) 90(2) | |
| 高等部2～3年 | 国 語 II 90(2) | 数 学 II・A 90(2) | | |

※表内の数字：年間標準授業時数・（ ）内は週時数

6 バトルクリーク補習授業校の現況、取組、課題

(1) 現況

①小中学部児童生徒数は年間を通して120名前後、全在籍数は160名前後で推移しており、大幅な増減がなく安定しています。しかし、今後、各日系企業で日本人駐在員が削減されることも予想され、学校経営上、安心はできません。

②バトルクリーク市、地元教育委員会・現地校、ミシガン州立大学、日系企業等との連携協力により、安定した学校運営が維持されており、たいへん恵まれた環境にある補習授業校の一つであると言えます。

(2) 取組

①私が派遣されてから、児童生徒の実態や保護者のニーズを踏まえ、教育課程を見直すとともに新たな教育活動をスタートさせ、補習授業校教育の充実を図りました。

- ・社会科指導（小5～中3）の導入
- ・全校朝読書

- ・読み聞かせ会（保護者ボランティア）
- ・学力検査（小3～中3、国語と算数・数学）
- ・漢字能力検定、児童漢検
（近隣校のグランドラピッズ補習授業校にも案内）



- ②研修の重点化を図り、平成17年度は「作文指導」、「音読指導」の2点に絞って、より実践的な研修を進め、効果を上げました。
- ③派遣1年目より、学校評価の取組として、保護者・児童生徒による「教育活動アンケート」を実施し、その意見や要望を生かした教育経営を進めるシステムを確立しました。

(3) 課題（補習授業校における管理運営上の諸問題）

①現地採用教員の指導・研修の難しさ

現地採用教員の大多数がミシガン州立大学の日本人留学生であり、教員経験者・教員免許所有者はほとんど確保できません。また、勤務年数も限られています。

更には、授業日のみの出勤、幅広い設置学部といった補習授業校独特の事情により、現地採用教員の力量を高める指導や研修の効果がなかなか高まりません。

②ニーズの多様化

保護者や児童生徒の現地校と補習授業校に対する比重のかけ方や、補習授業校に対する期待・要求が、多様です。そして、それが子どもの学習意欲にも反映します。

特に、中高生になると顕著になり、現地校との兼ね合いや進路により、学習意欲の差が大きくなります。これらが要因となり、授業の進め方や個への対応を難しくしています。

③保護者との連携

補習授業校における教育経営や学校運営の仕組みをよく理解していない保護者も少なくありません。また、スムーズな学校経営が続いているために、学校を支援協力しようという保護者の意識がやや薄れてきており、補習授業校の原点を再確認する時期に来ています。

その対策として、運営委員会や校長（派遣教員）は、学校運営や教育経営の状況をできるだけオープンにし、共通理解を図っています。

7 補習授業校における今後の教育指導の在り方

「帰国後を見据えた基礎基本の定着」という補習授業校教育のねらいを明確に打ち出した教育経営を進めていくべきであると考えます。それが曖昧になってしまうと、教育内容が保護者の要望で左右するなど、補習授業校で学ぶ意義が薄れるとともに、教育効果が高まらないことにもつながりかねません。

そのためには、派遣教員が教育のプロとして、教育経営において強いリーダーシップを発揮すべきです。また、学校運営委員会や理事会、更には保護者がそれをバックアップする体制になればなりません。

ただし、常に児童生徒の実態を調査したり、保護者の願いや意見に耳を傾けたりすることは大切です。そして、それらを踏まえながら、学校運営委員会や保護者との強い連携協力のもとで、よりよい補習授業校教育を目指していくべきであると考えます。

【具体的方策】

- (1) 自校の実態や特色を生かした教育課程並びに補習授業校独自の教育カリキュラム作成
- (2) 教科指導と学校行事が精選・調和された教育計画
- (3) 現地校と補習授業校における教育活動の連携・融合

8 終わりに

週に1度の授業日。3年間でもたったの147日。
だからこそ、1日1日が大切であり、毎週土曜日の
子供たちとの出会いは新鮮でした。

そして、授業は精選と個に応じた指導が必須でした。
補習授業校へ派遣になり、教育の原点を再確認できた
ように思います。

素晴らしい機会を2度も与えていただいた関係各位に深く感謝申し上げます。



【バトルクリーク補習授業校の全校生】